

京都のタクシー全面禁煙化への長い道のり

2005年4月大分タクシー協会の禁煙車全面導入を皮切りに、2007年5月名古屋地区から全国に広まったタクシー全面禁煙化の潮流は、次々と連鎖反応を引き起こし、2008年1月からは東京都でも全面禁煙化が実施され、タクシー全面禁煙化の流れはもはや押しとどめることのできないものになっている。その裏には、タクシーを安全、安心、快適な公共交通機関にしたいと願ってきたタクシーの利用者、乗務員および禁煙推進関係者の積年の努力があったことは言うまでもない。

そして、タクシー全面禁煙化は2009年1月21日現在31都府県で実施されるに至っている。http://nosmoke.hp.infoseek.co.jp/taxi/taxi_todoufukun.shtml ここでは京都におけるタクシー全面禁煙化に至る道程につき振り返り、今後に残された課題につき考える。

■京都のタクシー業界の状況

京都ではMKタクシーが全国に先駆けて1992年に全車禁煙タクシーを導入した。しかし他社の追随もなく、MKの禁煙タクシーはタバコ臭い車がある、乗客の喫煙要求を断らないなどの情報があり、「なんちゃって」禁煙タクシーと揶揄される状態であった。京都のタクシー業界は、タクシー事業の規制と規制緩和の相克の中、法人タクシーだけでも4団体に分れ四分五裂の状態、タクシー業界全体としての意思統一ができない状態が長く続いていた。紆余曲折を経て2008年8月末やっと法人タクシー4団体が、社団法人京都乗用自動車協会（京乗協）に一本化した。

■私たちのタクシー全面禁煙化要請行動

2007年2月 みやこ禁煙学会で禁煙タクシーを使用。2007年7月 京都禁煙推進研究会が法人タクシー4団体、個人タクシー4団体、京都運輸支局にタクシー全面禁煙化の要請。京阪神の禁煙団体と共に近畿運輸局にタクシー全面禁煙化の要請。2008年2月 研究会会員の要請で、都タクシーにタバコ臭い子育てタクシーの善処とタクシー禁煙化の要請。5月 京都禁煙推進研究会総会でタクシー全面禁煙化を重点課題に決定。「絶対禁煙車」団扇作成し5000枚配布。タクシー全面禁煙化をめざす会（代表渡辺文学氏）からも京都のタクシー協会に全面禁煙化の要請。6月 タクシー会社、個人タクシー団体および京都運輸支局を直接訪問しタクシー全面禁煙化を要請（討ち入り）。京都市立病院に乗り入れを禁煙タクシーのみにするよう要請。7月 京都府医師会など医療関係団体へタクシー全面禁煙化を要請するよう依頼。8月 タクシー全面禁煙化の署名活動を行っている中野製薬と意見交換。8月28日 自動車会館で京都のタクシー全面禁煙化を考える会開催。11月8日 医療関連5団体（京都府医師会▽京都府病院協会▽京都私立病院協会▽京都府薬剤師会▽NPO法人京都禁煙推進研究会）が京乗協牧村史朗会長を訪問し、タクシー全面禁煙化の早期実現を要望。京都府、京都市に働きかけ、京都府、京都市が京乗協にタクシー禁煙化につき事情

聴取。京都府看護協会が京乗協にタクシー全面禁煙化を要請。11月20日～12月6日 京都のタクシー全面禁煙化署名活動。約2週間で全国から3000筆を超す署名が集まった。

年	月日	タクシー全面禁煙化決定までの活動
2007年	2月	みやこ禁煙学会で禁煙タクシーを使用。
	7月	京都禁煙推進研究会が法人タクシー4団体、個人タクシー4団体、京都運輸支局にタクシー全面禁煙化の要請。 京阪神の禁煙団体と共に近畿運輸局にタクシー全面禁煙化の要請。 京都の中野製薬が1万名の署名を集め、7協会に提出
2008年	2月	研究会会員の要請で、都タクシーにタバコ臭い子育てタクシーの善処とタクシー禁煙化の要請。
	5月	京都禁煙推進研究会総会でタクシー全面禁煙化を重点課題に決定。 「絶対禁煙車」の団扇作成、5000枚配布。
	6月	タクシー会社、個人タクシー団体および京都運輸支局を直接訪問し タクシー全面禁煙化を要請（討ち入り）。 京都市立病院に乗り入れを禁煙タクシーのみにするよう要請。
	7月	京都府医師会など医療関係団体へタクシー全面禁煙化を要請するよう依頼。
	8月 8月28日	タクシー全面禁煙化の署名活動を行っている中野製薬と意見交換。 自動車会館で京都のタクシー全面禁煙化を考える会開催。
	11月8日 11月20日～ 12月9日	医療関連5団体が京都乗用自動車協会（京乗協）牧村史朗会長を訪問し、タクシー全面禁煙化の早期実現を要望。 京都府、京都市が京乗協に事情聴取。 京都府看護協会が京乗協にタクシー全面禁煙化を要請。 京都のタクシー全面禁煙化署名活動。約2週間で全国から3000筆を超す署名が集まった。 3000筆の署名を、京都禁煙推進研究会の理事が京乗協に届ける

■禁煙化要請の結果

12月10日の京乗協理事会でタクシー全面禁煙化が決定された。

12月17日の委員会で2009年3月1日からのタクシー全面禁煙が決定された。

12月19日 京都禁煙推進研究会と中野製薬が京乗協を訪問し全面禁煙化のお礼と円滑な実施を要請。その後京乗協が個人タクシー各団体にも共同歩調をとるように呼びかけた。

1月19日京乗協主催でタクシー会社向け研修会が開催された。

2月 京都禁煙推進研究会がタクシー乗務員向けの研修会を3回開催した。

1月から2月にかけて、京乗協が自主的に対応マニュアル作成、禁煙シール作成、リアウインドウに「3月1日から全面禁煙」の看板を掲示した。

2月28日 京都新聞

全面禁煙足並み乱れ 1日スタート 京のタクシー業界

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20090226-00000003-kyt-l26>

京都のタクシー業界が3月1日に全面禁煙化をスタートする。主導する法人タクシー団体が混乱を避けるため一斉導入を呼び掛けているが、不況下で客離れを懸念して不参加を表明する未加盟法人に加え、個人タクシーの協力も未知数で、足並みがそろわない状態での出発となる。

「業界が一丸となって禁煙を打ち出すことで、顧客の協力も得られる」。

先月19日、府内の3分の2の台数を占める法人タクシー60社が加盟する京都乗用自動車協会の牧村史朗会長は、初の説明会に集まった会員法人や個人タクシー組合幹部らに呼び掛けた。

府内約9700台のうち禁煙車は20%程度。同協会が一気に全車への導入にこだわるのは、禁煙と喫煙可能なタクシーが混在した場合、「なぜこっちはダメか」と乗客とトラブルの原因になりかねないとみるからだ。先行した他県で喫煙を売りにするタクシーが登場した例もあり、顧客の選別にさらされ、なし崩しになるのを懸念する。

京都でも実施を前に、協会非加盟の青葉交通（伏見区、29台）が「利用者から禁煙に対するクレームが多い。喫煙権もあるはず」として3月以降も喫煙を認める方針を表明。同じ姿勢の業者も数社あるとしており、同協会は「全面禁煙に向け、今後も粘り強く協力を求めていく」とする。

また、全体の約3分の1を占める個人タクシーの協力が鍵を握っている。府内には個人タクシー団体が5団体あり、いずれも禁煙には前向きだが、会員はそれぞれ独立した個人事業者。「強制はできず、どこまで徹底してくれるかは未知数」（全京都個人タクシー共済組合の小野高明理事長）という。

同協会は昨年12月に全面禁煙化の方針を決定して以来、個人業者などへの協力要請とともに、乗務員用の接客マニュアルも作成して配布。2月中旬からは、主要タクシー乗り場50カ所や加盟社の約5000台の後部に掲示して周知を進めてきた。

しかし、急激な景気悪化で長距離などの利用客が減少している上、相次ぐ強盗事件もあり、現場では利用客への対応に不安がぬぐえずにいる。法人タクシーのある男性運転手(53)は「酔った客に強く喫煙を求められた場合には拒否はできないかもしれない」と話す。

3月1日 毎日朝刊

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20090301-00000253-mailo-l26>

タクシー全面禁煙:協会、京都駅などでPR /京都 3月1日 16時2分配信 [毎日新聞](#)

府内のタクシー会社60社が加盟する京都乗用自動車協会(事務局・伏見区)は28日、タクシー車内での全面禁煙を翌日に控え、JR京都駅など5カ所で禁煙実施を伝えるチラシ入りのポケットティッシュを配った。禁煙初日となる1日にも配布して、「禁煙タクシー」をPRする。

加盟社の合計タクシーは約6500台で、府内の法人タクシーの8割以上。その他の法人タクシーと個人タクシーも協調し、1日からほぼすべてのタクシーが禁煙になるという。加盟タクシーには禁煙を呼び掛けるステッカーがはられる。【古屋敷尚子】

3月1日 読売新聞より

禁煙タクシースタート/京都

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kyoto/news/20090301-OYT8T00926.htm>

府内で最大のタクシー会社組合「京都乗用自動車協会」(伏見区)が提唱する車内での全面喫煙禁止が1日、始まった。府内で走る約9500台のタクシーのうち、協力するのは7割強の7000台程度と見込まれる。乗客、運転手双方から歓迎や不満、困惑など様々な声上がり、定着化に向けてはまだまだ時間がかかりそうだ。同協会などによると、禁煙タクシーの内訳は協会加盟を中心とする法人タクシーが約6500台で、個人タクシーが約500台という。この日朝、多くの車がロータリーに詰めて客待ちするJR京都駅北側(下京区)では、大手タクシー会社の幹部らが啓発ティッシュを客に配り、「今日から喫煙できません。ご協力をお願いします」と呼びかけた。法事で京都に来たという高松市の無職森野勝二さん(71)は「タクシーに乗るたび、においが気になって不快だった。早く全国的に全面禁煙にしてほしい」と歓迎。逆に愛煙家という東山区の無職田中高幸さん(74)は「タクシーの中ではリラックスできたのに……。さらに肩身が狭くなった」と残念そうだった。

また宇治市のJR宇治駅前客を待っていたタクシー運転手、和久吉則さん(64)は「たばこのにおいを嫌がる乗客が増えている。禁煙化で観光客や住民の乗車回数や距離が伸びるのではないかと期待を寄せた。一方、府北部は、協会に属さない大手もあり、禁煙の動きは南部より鈍い。舞鶴市や福知山市などで10営業所を展開する府北部最大手の日本交通(日交タクシー、福知山市)は協会に非加盟で、禁煙化には踏み切らなかった。「利用客の利便性を考えると、吸わないようにと言うのは難しい」という。

京都タクシー(舞鶴市)、峰山自動車(峰山タクシー、京丹後市)といった協会加盟社も「たばこを好む客とのトラブルになりかねない。同業者の足並みがそろそろまで様子を見る」と慎重姿勢を見せる。全国乗用自動車連合会によると、全国ではすでに31都県で原則として全面禁煙化が図られており、府内の取り組みは遅れていたといえる。約2年前から各タクシー会社に禁煙導入を呼びかけてきたNPO法人「京都禁煙推進研究会」の田中善紹理事長は「修学旅行生を始め多くの観光客が訪れる土地柄であることをもう少し自覚すべきだ。まだ禁煙化がすべてのタクシーに行き渡っておらず、できるだけ早期に本当の意味での全面禁煙を実現してほしい」と話す。府健康対策課によると、3年前に府が行った調査では府内の成人の喫煙率は男性32.8%、女性7.8%。国の同種の調査では全国平均は男性が39.9%、女性は10.0%で、府は全国よりやや低い傾向だった。

■今後の課題

- ・ タクシー事業者のタバコ問題についての無理解、乗務員の喫煙率の高さ、政府・国土交通省など行政のサボタージュがタクシー全面禁煙化の障壁である。
- ・ 既に全面禁煙化となった都県でもタバコ臭いタクシーがある、喫煙タクシーが走っているなど課題が残っている。
- ・ 受動喫煙の完全防止、FCTC8条ガイドラインの実現のためにも、タクシー車内禁煙の法制化が必要である。